

## 1 平成 22 年度に求められる取組

### (1) 年間指導計画の作成

- ① 地域や学校の実態及び体力運動能力調査の結果、児童の心身の発達の段階や特性等を十分考慮する。
- ② 6 年間を見通し、各学年の目標や内容、授業時数、単元配当等を的確に定め、年間をとおして運動の実践が円滑に行われるなど調和のとれた指導計画を作成する。
- ③ 学習内容の系統性を踏まえ、学年間や中学校との接続を意識した指導計画を作成する。

### (2) 単元や教材の開発

- ① 低・中学年において新たに導入される多様な動きをつくる運動（遊び）では、体のバランスをとったり用具を操作したりする動きをとおして、体の基本的な動きを総合的に身に付けられるようにする。
- ② 体ほぐしの運動と心の健康、けがの防止と運動の実践など、運動領域と保健領域を関連付ける。

### (3) 配慮すべきこと

低学年において、増加した時間の配当は、学校の実情や児童の実態に応じて内容の取扱いに偏りがないよう各領域に配分する。

## 2 教育課程編成上、参考となる取組例

### (1) 多様な動きをつくる運動（遊び）のパフレットの活用

新学習指導要領に提示された「多様な動き」をつくる運動（遊び）のパフレット（平成 20 年 3 月文科省配布）を校内研修で活用した。パフレットに掲載してある動きを一通り実施し、動きのこつを理解したり、提示しやすい動きや工夫しやすい動きを選別したりした。パフレットには、新学習指導要領解説書の例示を中心に工夫の視点、動きのポイント、教員の言葉かけの例などが示されていることから、教師間の教材研究に大変効果的であった。

### (2) 鬼遊びに「タグやフラッグ」を利用した活動

しっぽ取りゲームにタグやフラッグを取り入れたことで、逃げたり身をかわしたりする動きが活発になり、児童の興味・関心を高め、運動量を確保することができた。

## 3 教育課程編成上の Q&A

- Q1 学習したことを家庭で生かすことを重視しているが、教科指導の評価の対象となるのか。
- A1 授業の中だけで体力の向上を図ることは容易なことではなく、普段から運動に親しむことは重要であるが、学習したことを家庭で生かすことは、指導内容として示していないので教科指導の中で評価はしない。
- Q2 保健の授業時数は変わっていないが、新たな内容を加えても時間内で指導できるのか。
- A2 今回の改訂では、身近な生活における健康・安全に関する基礎的な内容を重視して指導内容を改善するとともに、系統性のある指導ができるよう健康に関する内容を明確にした。これまでの内容を整理してあるので、示された授業時数の中で、より内容を明確にした指導ができる。